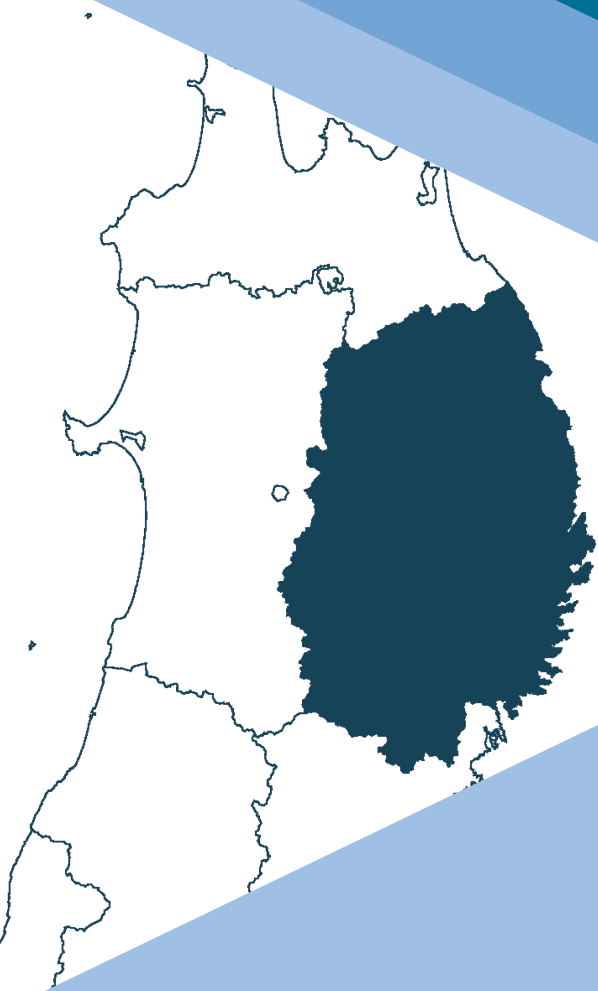
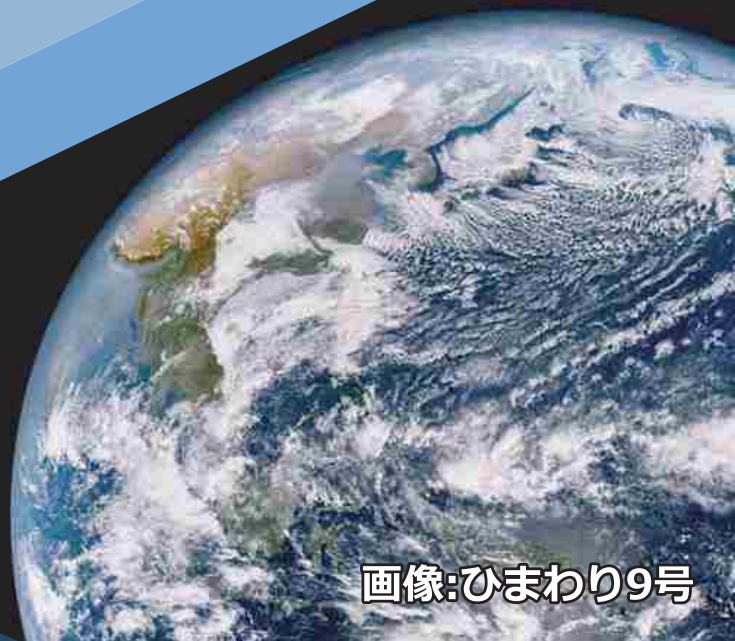


岩手県の21世紀末の気候

地球温暖化が最も進行する場合の
気温と降水の予測



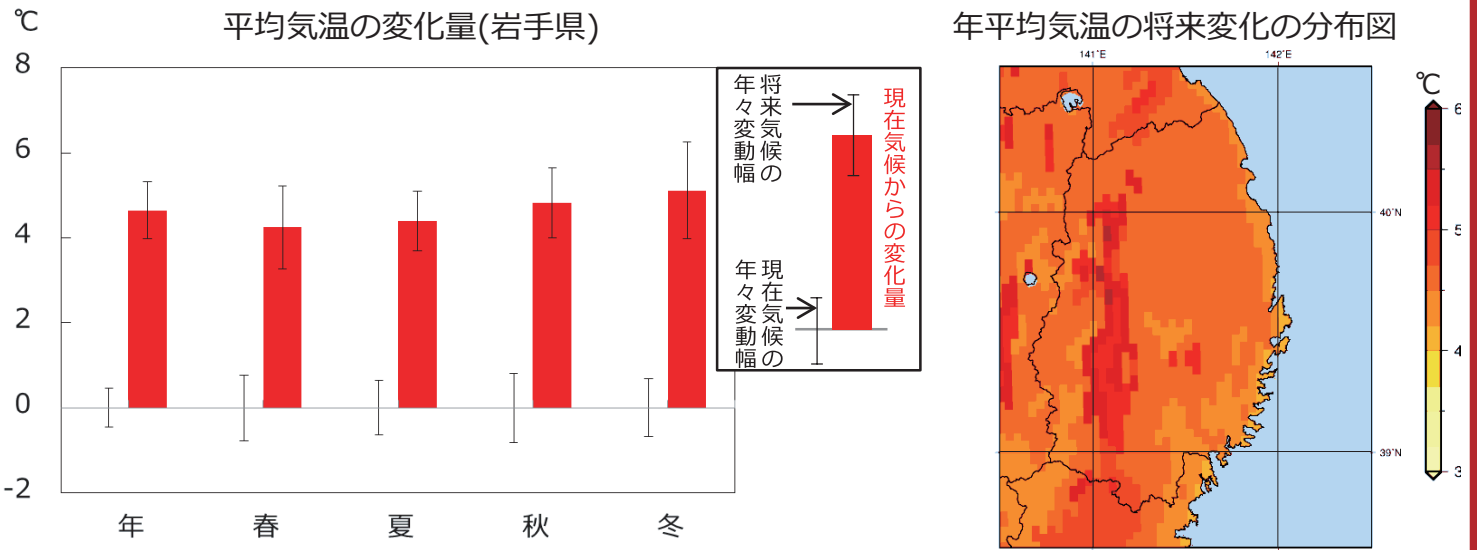
盛岡地方気象台



画像:ひまわり9号

21世紀末の気温の予測

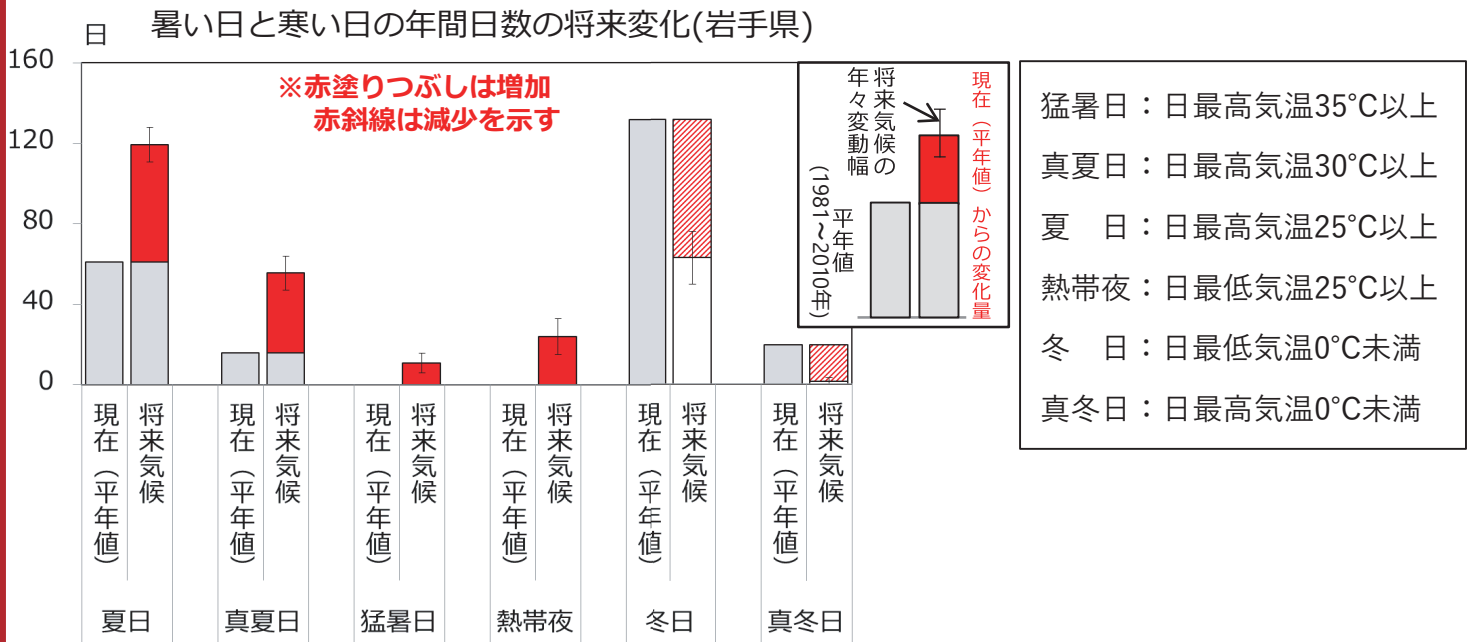
▶ 岩手県では年平均気温が100年で約4.6℃上昇



盛岡の平均気温は現在の奈良と同程度に！

現在の年平均気温の平年値 盛岡：10.2℃ 奈良：14.9℃

▶ 岩手県では猛暑日が100年で約10日増加



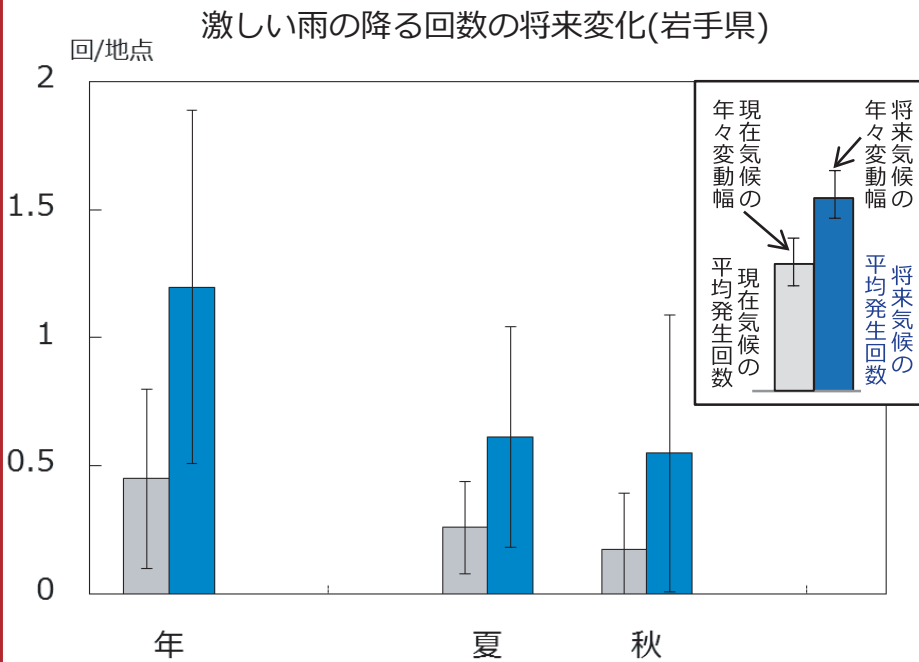
真夏日は約40日増加、冬日は約69日減少

▶ 産業や生態系など広い分野への大きな影響と健康被害の増大

21世紀末の降水の予測

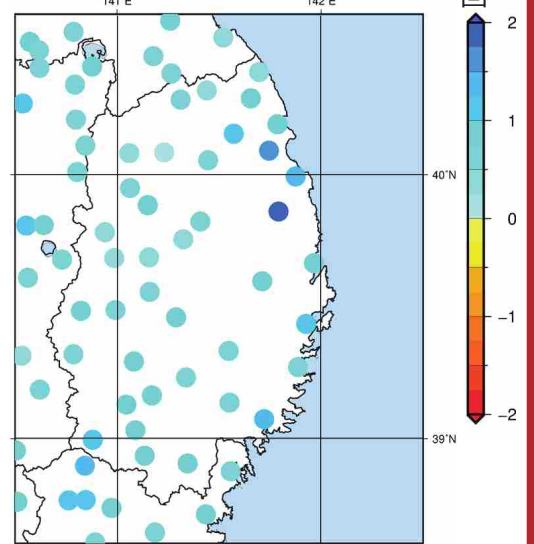
▶ 岩手県では激しい雨の発生が100年で約2.5倍に

※激しい雨：1時間降水量30mm以上



※春と冬は予測の変化傾向が不明瞭なため記載していません

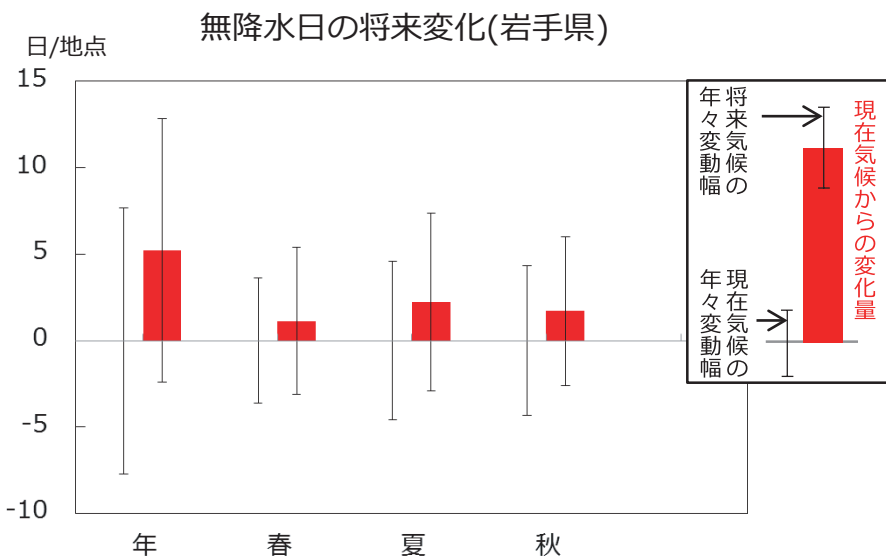
激しい雨の年間回数の将来変化分布図



上の図は激しい雨の年間回数、下の図は年間無降水日数について、将来変化(将来気候と現在気候の差)のアメダス地点ごとの予測を示します。ただし、増加・減少の傾向が不明瞭であった地点は記載していません。なお、1地点のみの変化に注目せず、地域の全体的な傾向を見るようにしてください。

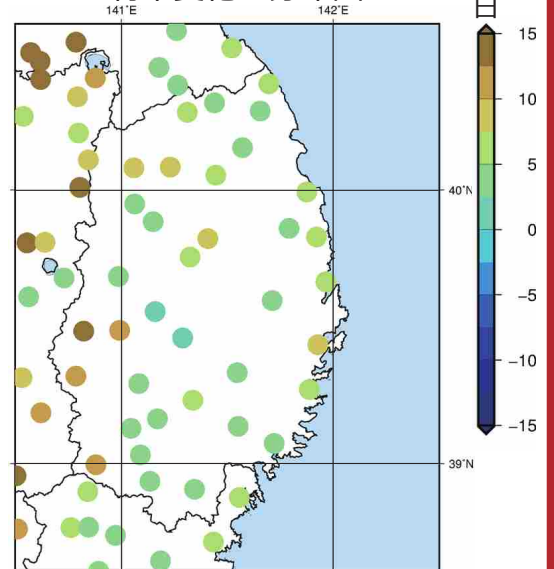
▶ 岩手県では降水の無い日も増加

※降水の無い日(無降水日)：日降水量1mm未満



※冬は予測の変化傾向が不明瞭なため記載していません

年間無降水日数の将来変化の分布図

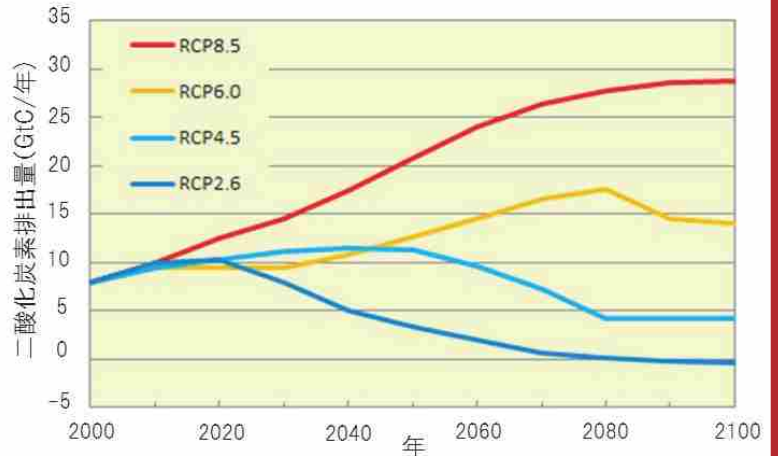


大雨による災害発生や水不足などのリスクが増大

予測資料について

このリーフレットには、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出削減対策が今後ほとんど進まず、地球温暖化が最も進行する場合を想定して21世紀末の岩手県の気候を予測した結果を掲載しています。

予測に際しては、国連の「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」が2013～2014年に公表した第5次評価報告書で採用した4つの温室効果ガス排出シナリオの中で最も排出量の多い「RCP8.5シナリオ」に基づいて、気候予測モデルを用いたコンピュータシミュレーションを実施しました。



4つのRCPシナリオ※それぞれの二酸化炭素排出量の想定（炭素重量換算）

※代表的濃度経路（Representative Concentration Pathways）シナリオ。社会・経済的な将来像を仮定せず、将来予測される多様な放射強制力の経路の中から、代表的なものを選択する。

将来気候・現在気候・平年値について

将来気候	気候予測モデルによる21世紀末（2076～2095年）における気候の予測結果です。
現在気候	気候予測モデルが再現した20世紀末（1980～1999年）の気候です。実際の観測に基づく値とは異なります。
平年値	1981～2010年までの平均値で、実際の観測に基づく値です。



全国版の情報はこちら
地球温暖化予測情報第9巻

<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/GWP/index.html>

